

池田研での研究の進め方 (2024年度版)

九州大学 大学院システム情報科学研究院
情報学部門 知能科学講座
池田 大輔



ikedadaisuke.899@m.kyushu-u.ac.jp
<http://ikeike.i.kyushu-u.ac.jp/>
<http://tiny.cc/otdekz> (研究室の短縮URL)

グランドルール

スケジュール帳をつける(Use date book)

- We also use Google Calendar.

アクションへリアクションを返す(Do some reaction to action)

- メールの返事、打ち合せ等の議事録など
reply to mails, and minutes of meeting, etc.
- ゼミや演習での発表の後も、コメントや質問等をまとめる。

ラボノートをつける(Use a research notebook)

- 研究に関することは**全て**ノートに書きだします。
- write down anything about your research
 - 実験等(の一部)も縮小して貼ります。メモなども貼る。
 - 検索したキーワード、アイデア、読んだ本・論文タイトルやメモなど
- 研究に関する情報は一箇所にまとめる。
- ページごとに日付を書く(日が変われば新しいページ)。

グランドルールの気持

自分で時間を「見える化」し管理する

- 「次回」や「締切」を自分で決めて、そこまでにタスクをこなす。
- スケジュール帳に予定に加え、実績もつける。

見えにくい「意図」を「見える化」し確定させる

- 自分以外の人に意図を知らせることで、フィードバックが得られる。
- 将来の自分が振り返って見ることもできる。

見えにくい試行錯誤を「見える化」し、動機につなげる

- まず、日付を書きこみ、今日やることを書き、やっていることを書き、やったことをまとめる。最後に、次にやることや締切を書く。
- 成果がでなくても、過程や進捗が見えるようにする。
- 以前のアイデアや失敗から生まれる発明・発見があるかも！！

見えにくいものを見る化
visualize something that difficult to see

研究キット

ノートPC(note pc)

- デスクトップPCとモニタは必要に応じて

ラボノート、テープのり(research note)

- 実験結果やメモを貼る時に使います。

ドッチファイル、インデックスラベル

- 以下のものをインデックスラベルに日付を書いて保管します。
 - 論文や実験結果のプリントアウトなど、ノートに貼ることができないもの。
 - 添削済みの論文等。

その他

- 必要なものがあれば用意します。
- 本、ソフトウェア等



こちらから提供する機会

オフィスアワー(office hour):12:00~12:30

- 水曜は学生のみ(Wed.'s one for students only)

拡大版オフィスアワー(ext. one):12:00~ (Thu.)

- 全員が1週間分の報告(students reports weekly progress)
- 他の人に簡潔に進捗を説明し、研究の状況を共有する。

発表ゼミ:深い議論を行う(presentation seminar)

- サーベイの結果、定式化、実験の報告などを週に1, 2人程度発表する。
- アイデアを叩いてもらい、よいものにしていく。
 - 聞く側は、アドバイスをする練習と考え、積極的に参画する。

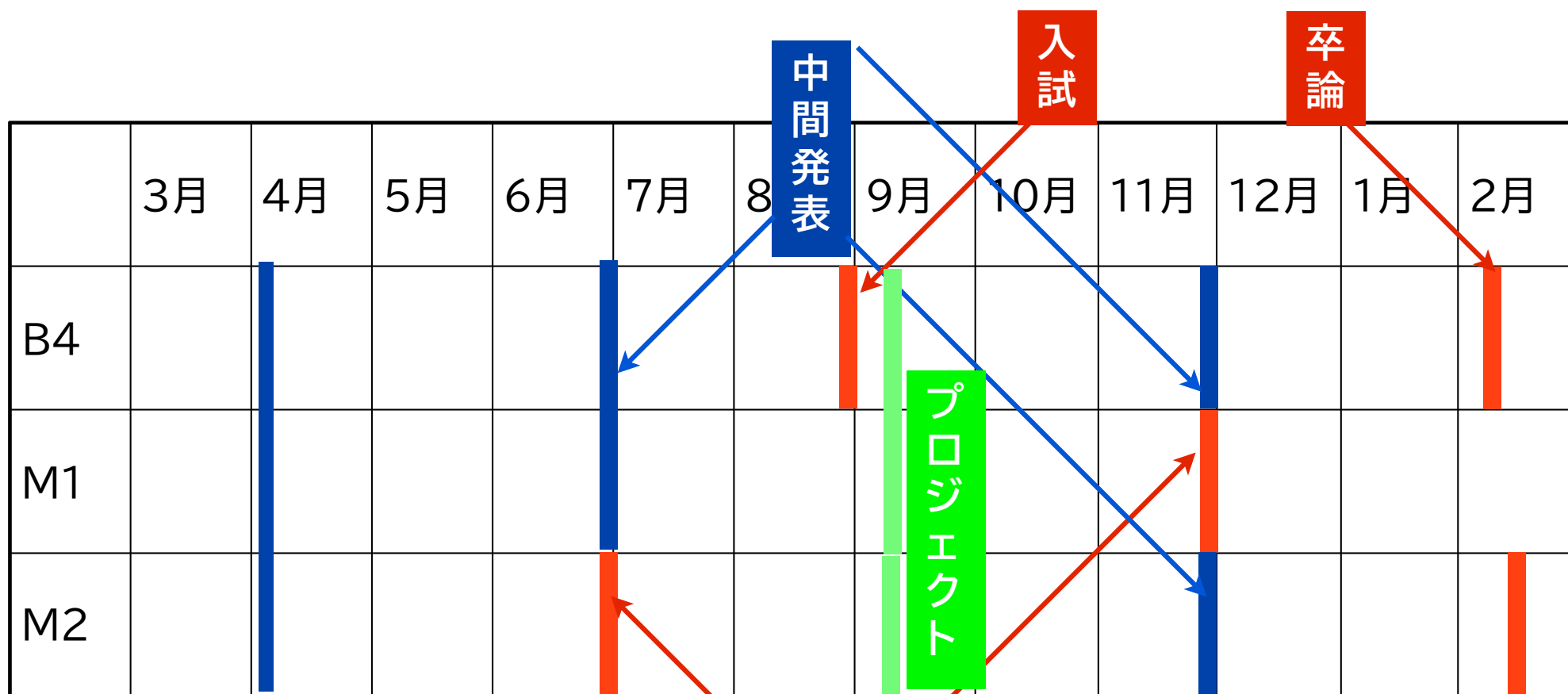
その他

- テーマや学年ごとなど必要に応じて。

必要に応じて個別打ち合わせを行います

~~personal mtg if necessary~~

年間スケジュール



キックオフ

自己紹介を兼ねて、
こんなことやってます、こ
んなことやりたい、
というプレゼン

演習

*ただし、順番により時期は
多少前後する

修論

情報共有

Slack

- チャットツール
- 日常の連絡はこちら
- ちょっとしたオンライン打ち合せはハドルミーティング

Scrapbox(要Googleアカウント)

- 蓄積する情報はこちら
- 例:新メンバー向けの情報(WiFiやプリンタ設定など)

Googleカレンダー

Microsoft Teams

- オンラインでのゼミ、プレゼンなど

【学府】単位としての研究(1/2)

講究科目：読解、演示、論述I/II、論議I/II

- 必修：情報理工学研究I/II→修論
- 必修：情報理工学演習・講究→サーベイ・研究進捗のプレゼン

選択である講究科目はゼミを中心とした研究活動で評価

- ゼミ参加→「**論議**」
 - 参加の回数等により評価(参加だけしていればC)
 - 質問やコメント、出席等の参加状況よりS, A, Bの評価
 - 個別打ち合せの回数や内容もプラス評価の対象
- ゼミ発表：論文紹介→「**読解**」
 - 1回でC。回数や内容でS, A, Bの評価
 - 内容によっては、発表と認めないことも。

【学府】単位としての研究(2/2)

選択である講究科目はゼミを中心とした研究活動で評価

- 対外的な発表:「**演示**」
 - 学会や研究会での発表
 - インターンでのプレゼンテーションでもよいが、この場合は、同じプレゼンを研究室でも行うこと
 - 演習・講究の発表練習は含めない。
- 論文執筆→「**論述**」
 - 演習・講究のレポートは認めない。
 - 研究計画でもよい。
 - その他、ある程度の長さがあり、論理的な構成を持つ文章でも認めることがあるので、確認すること。
- 注:実績があった次の学期の登録でも可